

令和7年度 岡山県農林水産総合センター農業大学校評価システムシート(実績)

教育目標	岡山県農業の次代を担う人材の育成並びに就農支援
------	-------------------------

重点目標	1 農業を志す意欲ある学生の確保	総合評価	B	評価基準 A:十分達成できた (達成度) B:概ね達成できた C:達成できなかった	
課 題	活動計画(具体的方策)	評価指標(数値目標)	達成度と活動の実施状況	評価	次年度への課題と対応策
1 幅広い人材確保に向けた学生募集活動の実施	- オープンキャンパスを3回開催し、1回目は県内農業関係高校を対象を絞りながら、その対象が求める情報提供を行い、農大への進学意欲を醸成する。2, 3回目は、特に対象を絞らずに実施する。 - 高校の進路担当者等へ1年生の参加を呼び掛ける。 - 学校見学への個別対応等により、農業大学校の理解を図る。	- 参加人数:延べ100名以上(R6年度実績:182名) - 学校見学対応件数:10組(R6年度実績:8組)	- 参加人数:延べ170名 6/7, 7/26, 8/23の計3回開催し、1回目(農業高校対象)62名、2回目(一般対象)60名と多くの参加があった。概要説明や校内見学(寮、食堂、風呂、実習ほ場)、学生との質疑応答、保護者との個別相談など、内容を改善し、満足度の向上を図った。 - 学校見学対応件数:10組(個別5組、高校5組) - 農林水産総合センター夏の体験教室(7/22～9/4)の一環として、高校生等の個別学校見学会を実施した他、その後も要望に応じて見学に対応した。また、農業関係高校4校の見学を5回受け入れた。学校概要の説明とほ場の見学等を実施し、農大の魅力を説明した。可能な限りオープンキャンパスへの参加を勧めた。	A	- 参加者アンケートを参考に、より満足度の高い内容に改善する。1年生の参加は少なかったが、1年次から進路決定に向けての学習を行っている高等学校もあり、引き続き1年生にも積極的に参加してもらえよう各高等学校へ呼びかける。また、校内見学時の学生の説明内容を充実させる。 - 農林水産総合センター夏の体験教室について広く周知する。また、高校訪問の際には個別に見学が可能であることを周知するが、個別見学よりもオープンキャンパスへの参加を促す。 - 農業関係高校等からの学校見学にも柔軟に対応する。
2 高校との連携強化(農大への理解促進)	- 校長及び副校長が農業関係高校を中心に、近年入学実績がある高校を訪問し、教育や学習活動の特色や進路等について情報提供し、その効果を高める。 - 農業関係高校の校長会への出席や進路担当教諭との連絡会議の開催により、情報交換を行い、課題の把握に努める。 - 高校の進路ガイダンスに積極的に参加し、情報を提供する。農業関係高校以外や県外高校からの要請にも対応する。	- 学校巡回:延べ20校(R6年度実績:延べ23校) - 校長会等出席:3回 連絡会議開催:2回(R6年度実績:3回、2回) - ガイダンス等参加:20回(R6年度実績:17回)	- 学校巡回:延べ100校 - 今年度は農業関係高校への訪問に加え、県内すべての高校訪問を行い、教育や学習活動の特色や進路等について情報提供した。多くの高校で、生徒の進路が多様化している。 - 校長会等出席:3回 連絡会議開催:2回 - 農業教育協会等の会議や行事へ出席し、高校からの情報収集に努めた。 - ガイダンス等参加:18回、144人 - 校長、副校長、教務課長、研修課長で分担し、学校概要、学生募集案内等について情報提供した。(農業関係高校以外5校)	A	- 農業関係高校への訪問を中心としながら、多様化する高校生の進路希望に対応するため、できる限り多くの学校を訪問し、学校の特色について周知する。 - 農業関係高校からの進路希望についての状況を把握するとともに、学生募集に関する意見や要望を参考に進路ガイダンスやオープンキャンパスの内容等について改善する。 - 進路ガイダンスは農業関係高校を中心に、農業関係以外からも実施依頼がある。学校PRの有効な手段であり今後も重点的に取り組む。
3 令和8年度入学生の確保	- ポスター、チラシ、パンフレット等を活用し学生や保護者へ、学校概要や入試情報を発信する。 - ホームページやInstagramを活用して学校の魅力発信を積極的に行う。	志願者数:延べ45名以上(過去5年平均:46.8名)(R6年度実績:59名)	- 志願者数:延べ38名 - 進路ガイダンス、オープンキャンパス等で、パンフレット等を有効に活用し、入試情報の周知やPRに努めた。 - ホームページ47回、Instagram38回の情報発信を行い、学校の魅力発信に努めた。	C	進路ガイダンス、オープンキャンパスでの入試情報を周知、PRするとともに、SNSを活用し、学生生活等の情報発信を強化する。

※将来の岡山県農業の担い手育成に向け、農業を志す高校生等に対し、農業大学校のPRを行い、幅広い人材の確保を図る。

重点目標	2 農業大の魅力向上		総合評価	B	評価基準 A:十分達成できた (達成度) B:概ね達成できた C:達成できなかった	
課 題	活動計画(具体的方策)	評価指標(数値目標)	達成度と活動の実施状況		評価	次年度への課題と対応策
1 質の高い教育の提供 (授業内容の充実・強化)	- 岡山大学、専門分野の学識経験者等、外部講師の協力を得て、高度な教育の機会を確保する。 「有機農業論」を園芸課程の必修科目とする。 - 学生満足度調査の分析結果を基に授業への工夫を図っているが、その効果を確認する。	- 専門分野外部講師による授業数:38講座以上 (R6年度実績:40講座) - 学生の関心度(満足度):2点以上(点数-5~+5) (R6年度実績:2.7点)	- 専門分野外部講師による授業数:41講座 - 特別講義として、岡山大学の講師によるゲノム編集技術について、中国四国農政局から農業施策と経営支援・スマート農業等について、日本農業新聞から電子版の活用方法について出前講座を行った。また、「有機農業論」を園芸科目の必修科目とした。 - 学生の満足度:2.4点 - 実習や技術習得に関する評価が3点以上と高く、講師や知識習得についても満足度が高い。		A	- 外部講師による専門性の高い授業内容と授業数を維持するとともに、時代の趨勢に合わせて特別講義(出前講座等)を実施する。 - 引き続き、学生に対し、シラバス等により、知識習得の到達目標を授業前に明示し、学習意欲の向上を図る。
2 実践能力の向上(資格取得の促進)	- 各種資格取得に向けた授業をカリキュラムに組み込むとともに、補習授業で対応する等資格取得を推進する。 - 日本農業技術検定については、事前の受験対策と各専攻での専門分野の講義で、合格率向上を図る。	- 資格取得者数(取得割合):20%以上 (R6年度実績:15名、38%) - 日本農業技術検定2級合格率:20%以上 (R6年度実績:5名、8.5%)	- 資格取得者数(取得割合)34名、52% - 狩猟免許(わな・銃猟)(14名:93%)、2級認定牛削蹄士(4名:100%)、家畜商免許(4名:100%)、フラワー装飾技能士3級:(3名:75%)、農業簿記検定3級:(4名:50%)、毒物劇物取扱者:(1名:13%)、危険物取扱者乙種第4類:(4名:17%) - 日本農業技術検定2級合格率:6名、15.4%		B	- 資格取得のためには、学生が自ら学ぶ動機付けと意欲の維持が不可欠である。そのため、継続的な声掛けを行うとともに、具体的な学修方法の指導による伴奏支援を徹底する。 - 日本農業技術検定については、講義での受験対策や、各専攻での専門分野の研修によって合格率アップを図る。
3 職員の指導能力等資質の向上	- 職員の指導能力向上に向け、国等が実施する各種研修へ積極的に派遣する。 - 学生へのメンタル指導に係る知識や情報を習得するため、専門家による職員研修を実施し、職員の学生指導能力向上に努める。	- 国等研修会参加職員数:1名程度 (R6年度実績:2名) - 職員研修回数:1回以上 (R6年度実績:1回)	- 国等研修会参加職員数:4名 - 農作業安全に関する指導者向け研修会オンライン参加(2)、西日本ブロック農業者研修教育施設指導職員研修会(果樹1、畜産1) - 職員研修回数:1回 - eラーニングにて「大学における自殺対策推進のための研修」を受講した。自殺のリスクがある学生への気づきや傾聴、適切な支援体制について学び、学生指導における対応力の向上を図った。		A	- 国等の研修は、農業大校での勤務経験が少ない職員を中心に、今後も継続して受講する。 - 多様な特性を持つ学生の増加に対応するため、県保健福祉センター等による職員研修を実施し、支援体制の強化を図る。
4 教育環境の整備・充実	- 充実した教育環境の整備に向け、機械・施設及び機材の整備、修繕を計画的に進める。 - 学生寮の設備に関しては、寮自治会、学生自治会と話し合いながら、後援会の協力も得て、更新・メンテナンスを行う。	- 施設整備、改修実績(導入実績) - 学生の満足度:2点以上(点数-5~+5) (R6年度実績:2.4点)	- 現場教室・実習控室のエアコン・ハウス被覆資材・環境制御装置・UVB電灯の更新、ぶどうの棚の張替、寮居室のエアコンの更新、暑熱対策器具の導入を行った。 - 学生の満足度:2.0 - 寮自治会との話し合いの中で改善要望を聞きながら、居室のエアコンの更新、LED化を進めた。		B	- 教育環境の高度化に向けて、教育施設や設備・機械の計画的な整備・更新を進めるとともに、一層の充実に努める。 - 春風寮も築14年が経過し、エアコンの故障が目立ち始めている。猛暑対策の一環として、今後も計画的な居室のエアコン更新を進めていく。
5 広報活動等の強化	講義や実習、寮生活等の学校生活の様子やオープンキャンパスの告知、入試情報等をHPで発信するとともに、SNSを活用した情報発信を積極的に行い農大の魅力向上に努める。	- HP情報発信(更新回数):60回以上 Instagram情報発信:80回以上 (R6年度実績:HP78回、IG77回) - 農大通信の発行回数:5回以上 (R6年度実績:6回)	- HPの情報発信(更新回数):47回 - Instagramの情報発信:38回 「ミニトピックス」としてHPに日々の様子を発信する他、Instagramでタイムリーに情報発信した。 - 農大通信の発行回数:7回		C	- ホームページの「ミニトピックス」では授業の様子を中心に、Instagramでは実習や農大生活の魅力を伝える充実した内容を発信していく。 - 更新頻度の向上が課題となっているが、現在は学生によるInstagram発信を計画し、運用体制の検討を進めている。 - 農大通信は主要行事に絞って発行し、HPやInstagramでの情報発信に努める。

※教育内容の充実に向け、職員の資質向上に努め、実践的な教育による専門学校としての特色ある学校づくりを推進するとともに、学生の技能・知識の向上を図る。

重点目標	3 就農促進と進路指導体制の強化		総合評価	A	評価基準 A:十分達成できた (達成度) B:概ね達成できた C:達成できなかった	
課 題	活動計画(具体的方策)	評価指標(数値目標)	達成度と活動の実施状況		評価	次年度への課題と対応策
1 就農意欲の醸成	農大OBや農業後継者との意見交換、農業生産法人説明会により、農業経営をより深く理解する機会を提供し、就農意欲の醸成を図る。	- 就農及び農業関係団体・企業への就職率:80%以上(R6年度実績:81%) - OBや農業後継者との意見交換会:2回(R6年度実績:6回)	- 就農及び農業関係団体・企業への就職率:92% 12月までに全員の進路が決定した。法人就農が54%、農業関係団体への就職が33%であった。 - OBや農業後継者との意見交換会:6回 1年生は社会科学基礎講座にてOBとの意見交換会を3回実施し、2年生は法人等就職説明会でOBとの意見交換を2回実施した。また、後継者クラブとの意見交換会を実施した。		A	- 在校生は法人就農、農業関係団体への関心が強いので、進路決定を促すため、早期の企業訪問を勧め、各々のマッチングを図る。 - OB等農業者との対話は進路に大きく影響を与え、就職にあたっての心構えなど、内省を促す効果が高いので、これまでどおり意見交換できる機よう授業を組み立てる。
2 進路選択・決定の早期意識付け	- 民間と連携したセミナーの開催等、早期から進路に対する動機付けを行う。 - 進路指導においては各専攻の担当と十分な情報共有を図り、適切な進路指導を行う。 - 進路希望調査、個人・三者面談等により、進路希望・就職活動状況を把握するとともに進路指導を行う。	1年時末の進路目標決定者割合:100% 2年時11月末の内定率:70%以上(R5年度実績:71%)(R6年度実績:81%)	1年時末の進路目標決定者割合:39% - 進路希望調査や社会科学基礎の講義により、進路決定を促した。今後企業訪問を勧め、進路を具体化していく。 2年時11月末時点の内定率:100% - 選考に対応するため、学生の希望に沿ってES作成の支援や面接練習を実施した。個々に声掛けを行うことが学生の意識高揚につながると考えている。 1年生に対し、夏季、冬季の2回、希望調査を実施し、専攻職員を交えて全1年生と面談した。法人就農や関連団体への就職希望が多い。		B	- 民間と連携したセミナーは、学生に好評で、スキルアップにつながっているので、継続実施する。進路の決定は企業訪問を経て決定していく。 - 各専攻の職員がこまめに声掛けを行うほか、進路担当からの声掛けやアドバイスをを行うことで、学生の就職に対する意識高揚を図る。 1年冬季の希望調査、面談が進路決定には重要だが、それまでに学生自身が進路について検討できるよう、日々の声掛けを励行する。
3 卒業時の進路決定	- 農業法人の説明会や、農業関連企業へ就職したOBとの座談会等を開催し、農業関連の就職先への学生の理解を深める。 - 個別指導の強化により、求職と求人とのマッチングを図る。	卒業時進路決定率:100%(R6年度実績:91%)	- 卒業時進路決定率:100% 7年度は12月以降に進路を変更する学生はいなかった。 - 副校長、専攻・コース職員が学生への個別に対応した。1月以降、農大への求人は学生がスマホで閲覧できるようにした。 - 求職活動は事前に会社訪問を行い、会社との相性を確認して開始するよう指導している。		A	- 進路決定までに、企業訪問やインターンを経て、就職の意思を確認させておくことが重要と考えている。 - 民間の企業がスマホで求人情報を閲覧できるシステムを運営しており、近県では広島県、香川県が導入している。機能面では本校の方法より優れるが、今のところ導入予定はない。

※進路意識、就職活動意識の高揚を図るとともに、基礎学力の向上の他、履歴書・エントリーシート等の作成など進路決定に向けた支援の充実、体制の強化を進める。

重点目標	4 地域の担い手に対する研修による多様な人材の育成		総合評価	B		評価基準 A:十分達成できた (達成度) B:概ね達成できた C:達成できなかった
課 題	活動計画(具体的方策)	評価指標(数値目標)	達成度と活動の実施状況		評価	次年度への課題と対応策
1 農業経営の発展に向けた研修の充実強化	- 農業経営に必要な資格免許として、応用技術研修(トラクター、けん引、小型建機、アーク溶接、フォークリフト)を実施する。 - 受講者へのアンケートを実施し、研修内容をより充実していく。	- 資格取得者:50名以上(R6年度実績:49名) - 受講者の満足度:8点以上(10点満点)(R6年度実績:9.4点)	- 資格取得者:47名(受講者数47名)トラクター 20名、けん引 7名、小型建機12名、アーク溶接 1名、フォークリフト7名 - 研修者の満足度:8.8		B	資格取得を促進するため、関連研修の実施や申請手続きのサポートを継続して行う。

※実践的な農業体験の場の提供と関係機関等との連携による即戦力となる人材の育成を図るとともに就農定着を進める。